

サプライサイド構造改革

田中 修

はじめに

習近平総書記は11月10日の党中央財經領導小組会議において、「総需要を適度に拡大すると同時に、サプライサイドの構造改革強化に力を入れ、供給体系の質・効率向上に力を入れ、経済の持続的な成長動力を増強し、わが国の社会生産力水準の全面的な飛躍実現を推進しなければならない」とした。この発言を受けて、現在「サプライサイド構造改革」が中国人エコノミストの中で一種の流行語になっている。

本稿では、12月2日と7日に開催された座談会における李克強総理の発言と、人民日報海外版2015年12月9日記事の解説を紹介する。

1. 経済政策専門家座談会（12月2日）

会議には、張高麗・劉延東・汪洋・馬凱各副総理、楊晶・王勇国務委員が出席し、李克強総理が、次のような重要講話を行った。

今年に入り、我々は安定の中で前進を求めることを堅持し、方向を定めたコントロール・タイミングを見計らったコントロールが精確に実施され、多重の困難を克服し、経済運営は合理的区間を維持し、引き続き供給・需要両サイドから構造改革を推進し、新たな発展の動力エネルギーの急速な成長を促進した。

しかし、現在内外情勢は依然として複雑・峻厳であり、直面する試練・リスクは低評価できない。我々はイノベーション・協調・グリーン・開放・共に享受という発展理念を堅持し、引き続き改革という方法を用いて総合的に施策を行い、経済の平穏な発展を維持しなければならない。

来年、第13次5ヵ年計画の良好なスタートを実現するには、引き続き供給・需要両サイドから構造改革を強化し、供給のイノベーションによって需要の拡大をもたらし、有効需要の拡大によって供給のグレードアップを促し¹、安定成長と構造調整が相互に支えあい、相互に促して共に前進することを実現しなければならない。

供給方面では、引き続き構造的減税等の手段をうまく用いて、「大衆による起業・万人によるイノベーション」と「中国製造2025」、「インターネット+」アクションプランを推進し、サービス業・先進的製造業の発展を促進し、小型・零細企業の成長を支援し、供給のグレードアップに対する制度のイノベーションと技術進歩の倍加効用を発揮させ、有効な供給を拡大する。

¹ ゴチックは筆者。

需要方面では、より品質の優れた製品、より豊富な新業態、より便利なサービスによって、消費需要を牽引・創造し、情報・グリーン・観光等の分野での新たな消費の発展を支援し、消費のグレードアップにおいて需要の潜在力を発揮させる。有効な投資を積極的に増やし、社会資本に対する政府資金の牽引作用と投資拡大の乗数効果をさらに好く発揮させて、不足部分を補うプロジェクト建設を加速し、新しいタイプの都市化・産業のグレードアップ・重大な民生プロジェクト等を支援し、長期に立脚して投資の総合収益の増進を実現する。

発展の質・効率を高め、発展の優位性を深く根付かせるには、壮大な新動力エネルギーの育成に力を入れ、決意を固めて伝統エネルギーグレードアップ・改造しなければならない。両方を促進しなければならず、片方だけではだめである。

一方で、行政の簡素化・権限の下方委譲、開放と管理の結合、サービスの最適化改革を引き続き深化させ、イノベーション駆動による発展戦略を実施、更に大きな程度大衆による起業・万人によるイノベーションの潜在力・活力を奮い立たせ、全社会において起業・イノベーション精神と企業家精神の育成に力を入れ、業種独占を打破し、公平な競争を保護し、新興産業の成長と雇用の拡大を促進しなければならない。

他方で、伝統業種の改造・グレードアップをより力強く加速し、一部の重点業種を選択し、技術・安全・環境保護・エネルギー消費等の基準をうまく用いて、政府の誘導と金融の支援を増やし、市場ルールを尊重し、合併再編を推進し、落后した生産能力の淘汰と「ゾンビ企業」の退出を加速して、企業収益と資源の配分効率の反転上昇を促進しなければならない。

錯綜し複雑な経済発展情勢に対して、各地方・各部門は、各政策決定・手配の実施にしっかりと取り組むだけでなく、経済運営における萌芽的・傾向的な問題を鋭敏に捕捉しなければならない。

重大問題の研究を強化し、末端企業・専門家・学者に多く策を求め、新たな理念で発展行動を牽引し、新たな措置で質の向上・グレードアップを支えて、中国経済が中高速成長を維持し、ミドル・ハイエンドに邁進するよう努力・推進しなければならない。

2. 第13次5カ年計画編制工作国内外専門家座談会（12月7日）

国家発展・改革委員会で開催された。会議には、張高麗副総理、楊晶國務院秘書長が出席し、外国からはスティグリッツ、世界銀行のカウフマン等が招請され、李克強総理が、次のような重要講話を行った。

第13次5カ年計画は中央の「建議」を実施し、小康社会の全面的実現にしっかりと取り組み、イノベーション・協調・グリーン・開放・共に享受という発展新理念を貫徹し、各方

面の知恵を凝集しなければならない。

今回国務院は初めて国内外の専門家を招請し、一緒に 5 年計画編制について知恵を出し合うこととなったが、これは**計画が国情に立脚し、実際に符合しなければならないのみならず、国際経験を参考とし、努力を経て「中等所得の罅」の基本的な乗越えを実現しなければならないため²**である。

計画をしっかりと編制するためには、国際経済動向と国内が直面する主要な矛盾を深く分析・判断し、安定成長と構造調整のバランスをしっかりと把握しなければならない。

安定成長を通じて構造調整のために余地を創造するのみならず、構造調整によって持続可能な成長能力を高め、生産能力の過剰・人口の高齢化・社会保障の脆弱さ・公共サービスの不足等深層レベルの矛盾解決を推進し、発展の成果を民生福祉の増進により好く体现させなければならない。

引き続き、供給・需要両サイドから力を発揮して構造改革を推進しなければならない。

計画は、イノベーション駆動を核心に位置づけ、新たな動力エネルギーの育成加速・伝統的な動力エネルギーの改造・向上を軸に、大衆による起業・万人によるイノベーションによって産業の転換・グレードアップを牽引し、より多くの新産業・新業態・新モデルが湧き起るようにして、市場の需要に適應するとともにより多くの雇用を牽引しなければならない。

中国は工業化・都市化プロセスにある発展途上国であり、大量の現実・潜在的な需要が存在しており、有効な投資の拡大・消費のグレードアップ促進・新しいタイプの都市化の牽引作用発揮等の重大措置を通じて、力を入れて内需の潜在力を奮い立たせなければならない。

政府のサービス調達等の方式を運用して、社会のパワーを十分動員し、公共財・サービスの供給を増やす。対外開放レベルを不断に高め、改革開放を引き続き深化させることによって社会の生産力をさらに解放し発展させる。

計画は発展の質・効率の向上を際立たせなければならない。

体制刷新と科学技術イノベーションと有機的に結びつけ、全要素生産性を引き上げ、経済成長を、主として自然資源への依存から、人材資源へのより多い依存へと転換する。

目標の細分化とハードな措置を通じて、地方・業種・部門が各方面の要求を自身の追求へと変化させることを誘導する。

研究開発への投入を更に増やし、人材資源への投入を更に増やして、知的財産権を保護し、国民の素質を高め、生態環境を改善し、経済成長に対するイノベーションの寄与率を高める。

² ゴチックは筆者。

国家発展・改革委員会は関係部門と共に、門戸を開いて計画を編制することを堅持し、重点政策・重大プロジェクト・重要措置を深く検討・提起し、トップダウン設計をしっかりと行うのみならず、末端のパイオニア精神をも尊重し、地方が土地の事情に適した措置を採用し創造性を発揮するための余地を残しておかなければならない。ルールに則り、民意を体現し、発展を促進する好い計画を編制し、中央・地方の2つの積極性を十分動員して、広範な人民大衆と幾千万の市場主体の積極性・創造力を奮い立たせ、期限どおりの小康社会の全面的実現を確保しなければならない。

3. 人民日報海外版 2015年12月9日記事

12月7日、国家発展・改革委員会を視察した際、李克強は再度「供給・需要両サイドから力を発揮し、構造改革を推進しなければならない」と提起した。

事実上、11月から、中央ハイレベルの講話において、「サプライサイド改革」は高頻度の言葉となっている。では、この経済学用語はいったいどういう意味なのか？なぜ、中央ハイレベルがこのように重視しているのか？これは、中国経済の将来の発展の考え方のどのような変化・傾向を体現しているのだろうか？

(1) 発展の考え方の転換

11月、党中央財經領導小組会議において、習近平は「総需要を適度に拡大すると同時に、サプライサイドの構造改革の強化に力を入れなければならない」と提起した。G20 サミット・APEC 会議において、習近平は「サプライサイドと需要サイドを重視し、協同で力を発揮させる」ことを世界経済の処方箋とした。同時期の国務院常務会議でも同様に、「新たな供給・新たな動力を育成・形成しなければならない」と強調された。

いわゆる「サプライサイド」に対応するのは「需要サイド」である。需要サイドは、我々が熟知している投資・消費・輸出が経済を牽引する「3頭立ての馬車」である。しかし、サプライサイドは、労働力・土地・資本・イノベーション等の要素となる³。

経済学界では、長期にわたり、中国経済の発展を指導してきたのはケインズ主義の「需要管理」であった。「4兆元」の刺激計画はもちろん、利下げ・預金準備率引下げ等のマクロ・コントロールも、需要管理に属している。この考え方では、経済成長の動力不足は、需要不足に由来するとする。このため、各種方式によって需要を刺激し、経済を牽引する必要がある、このことが経済の原動力だとするのである。

これに対し、サプライサイド改革の考え方は、供給・生産サイドに目を据え、生産力の解放・競争力の向上を通じて、中国経済のグレードアップ版を作り上げるのである。エコノミストの眼中において、「サプライサイド改革」は、短期的にみれば経済の下振れ圧力に対応するためであり、長期的にみれば需給の矛盾を解決するためのものであり、構造改革

³ ゴチックは筆者。

によって中国経済の質・効率の向上を助け推進し、「需給の釣り合った」新たな経済構造を確立するものである。

（２）構造矛盾の解消

「3 頭立ての馬車」という伝統的観点からすれば、中国の輸出入は下降し、「人口ボーナス」が消失することは、製造業の低コスト時代を過去のものとするのみならず、不動産等の販売量を低下させ、人口構造のターニングポイントが出現することになる。しかも、過去の投資牽引に依存した建設ブームがもたらした問題も軽視できない。

しかし、供給動力の向上という考え方の下では、このような矛盾が体现しているのは、正に需給構造のアンバランスである。たとえば、長期間の経済発展を経て、中国の庶民の消費能力はずっと向上しているが、伝統的なローエンドの消費財供給が深刻に過剰となっており、高品質の消費財はむしろ供給が不足している。「海外爆買い」の熱狂にせよ、「11 月 11 日」の国外製品への追従にせよ、いずれも需給構造のアンバランスの問題を体现しているのである。

財政学者で華夏新供給経済学研究学院の賈康院長がみるところでは、グローバル化した社会大生産の時代には、サプライサイドでいったん物事がひっくり返るようなイノベーションを生み出すことに成功すれば、市場の反応は極端に熱烈となり、実際に需要の伸びを刺激する。この方面の例では、ジョブズが創造を主導した「アップル」製品、「インターネット電子ビジネス・金融」等がある。

国家発展改革委員会マクロ経済研究院の馬曉河副院長の指摘では、総体としてみると、中国製造業の自主的なイノベーション能力は強くなく、対外技術への依存度は 50%に達している。サプライサイドの構造改革を強化し、市場化改革プロセスを早急に推進してこそ、貴重な「チャンスの時期」において成果を上げることができるのである。

（３）生産要素の解放

つまり、サプライサイド改革、あるいは「需給両サイドの力を発揮させる」ことの核心は、マクロ政策・法律手段を利用し、生産要素を発展が必要な分野に誘導し、生産要素を合理的に流通させ、科学的に組み合わせることである。

中央財経領導小組会議において、習近平は明確に「サプライサイド改革」は 4 大分野での政策にリンクさせるよう指示した。すなわち、①過剰生産能力の有効な解消を促進し、産業の最適化・再編を促進する。②コストを引き下げ、企業が競争の優位性を維持するよう支援する。③不動産の在庫を解消し、不動産業の持続的発展を促進する。④金融リスクを防止・解消し、機能が健全な株式市場の形成を加速する。

専門家からみれば、この 4 分野の政策は、「過剰を解消」するだけでなく、「最適化を促進」し、「保障を提供」することをその中に含んでおり、需給両サイドのバランスを体现している。賈康は、このような改革は、膨大な系統のプロジェクトであると指摘している。

需要サイドの「3頭立ての馬車」を強調することから、サプライサイドと需要サイドの「両サイドの力を発揮させる」を強調するようになったことは、中国経済の改革の全く新たな視点を体現している。国務院が最近出した「新たな消費の牽引、新たな供給・新たな動力の育成及び消費構造のグレードアップを早急に促進する意見」も、サプライサイドから着手し、経済発展を支える新たな動力メカニズムを作り上げるという考え方を体現している。将来、供給・需要の両サイドの改革も、中国経済のためにより深層の活力・動力をもたらすことになろう。

(12月16日記)